

1. ちいさい秋みつけた

サトウハチロー作詞・中田喜直作曲

- 一、誰かさんが 誰かさんが  
誰かさんが みつけた  
ちいさい秋 ちいさい秋  
ちいさい秋 みつけた  
めかくし鬼さん 手のなる方へ  
すましたお耳に かすかにしみた  
よんでる口笛 もずの声  
ちいさい秋 ちいさい秋  
ちいさい秋 みつけた
- 二、誰かさんが 誰かさんが  
誰かさんが みつけた  
ちいさい秋 ちいさい秋  
ちいさい秋 みつけた  
お部屋は北向き くもりのガラス  
うつろな目の色 とかしたミルク  
わずかなすきから 秋の風  
ちいさい秋 ちいさい秋  
ちいさい秋 みつけた
- 三、誰かさんが 誰かさんが  
誰かさんが みつけた  
ちいさい秋 ちいさい秋  
ちいさい秋 みつけた  
むかしの むかしの 風見の鳥の  
ぼやけたとさかに はぜの葉ひとつ  
はぜの葉あかくて 入日色  
ちいさい秋 ちいさい秋  
ちいさい秋 みつけた

2. 月の沙漠 加藤まさを作詞・佐々木すぐる作曲

- 一、月の沙漠を はるばると  
旅のらくだがゆきました  
金と銀とのくらおいて  
二つならんでゆきました
- 二、金のくらには銀のかめ  
銀のくらには金のかめ  
二つのかめは それぞれに

- 三、先のくらには王子さま  
あとのくらにはお姫さま  
乗った二人は おそろいの  
白い上着を着てました
- 四、広い沙漠をひとすじに  
二人はどこへゆくのでしょうか  
おぼろにけぶる月の夜を  
対のらくだはとぼとぼと  
砂丘をこえてゆきました  
だまってこえて ゆきました

3. 荒城の月 土井晩翠作詞・滝廉太郎作曲

- 一、春高楼(こうろう)の花の宴(えん)  
巡(めぐ)る盃(さかずき)かげさして  
千代(ちよ)の松が枝(え)わけ出(い)でし  
昔の光いまいずこ
- 二、秋陣営(じんえい)の霜の色  
鳴きゆく雁(かり)の数見せて  
植うる剣(つるぎ)に照りそいし  
昔の光いまいずこ
- 三、いま荒城の夜半(よわ)の月  
替(かわ)らぬ光たがためぞ  
垣に残るはただ葛(かずら)  
松に歌うはただ嵐(あらし)
- 四、天上影は替らねど  
榮枯は移る世の姿  
写さんとてか今もなお  
嗚呼(ああ)荒城の夜半の月

4. 上を向いて歩こう

永六輔作詞・中村八大作曲

- 上を向いて歩こう  
涙がこぼれないように  
思い出す 春の日 一人ぼっちの夜
- 上を向いて歩こう  
にじんだ星をかぞえて  
思い出す 夏の日 一人ぼっちの夜

幸せは 雲の上に

幸せは 空の上に

上を向いて歩こう

涙がこぼれないように

泣きながら 歩く 一人ぼっちの夜

思い出す 秋の日 一人ぼっちの夜

悲しみは星の影に

悲しみは月の影に

上を向いて歩こう

涙がこぼれないように

泣きながら 歩く 一人ぼっちの夜

一人ぼっちの夜 一人ぼっちの夜

## 5. 見上げてごらん夜の星を

永六輔作詞・いずみたく作曲

見上げてごらん 夜の星を 小さな星の  
小さな光が ささやかな幸せを歌ってる

見上げてごらん 夜の星を 僕らのように  
名もない星が ささやかな幸せを祈ってる

手をつなごう僕と 追いかけてよう夢を  
二人なら苦しくなんかないさ

見上げてごらん 夜の星を 小さな星の  
小さな光が ささやかな幸せを 歌ってる

見上げてごらん 夜の星を 僕らのように  
名もない星が ささやかな幸せを祈ってる  
ささやかな幸せを祈ってる

## 6. 学生時代 作詞・作曲平岡精二

一、つたの絡まるチャペルで 祈りを捧げた日  
夢多かりしあの頃の 思い出をたどれば  
懐しい友の顔が 一人一人うかぶ  
重いカバンを抱えて 通ったあの道

秋の日の図書館の ノートとインクの匂い  
枯葉の散る窓辺 学生時代

二、讃美歌を歌いながら 清い死を夢みた  
何んの よそおいもせずに 口数も少なく  
胸の中に秘めていた 恋への憧れは

いつもはかなく破れて 一人書いた日記

本棚に目をやれば あの頃読んだ小説  
過ぎし日よ わたしの学生時代

三、ロウソクの灯に輝く 十字架を見つめて  
白い指をくみながら うつむいていた友  
その美しい横顔 姉のように慕い  
いつまでもかわらずに と願った幸せ

テニスコート キャンプファイヤー

懐しい日々は帰らず

すばらしいあの頃 学生時代

すばらしいあの頃 学生時代

## 7. 庭の千草 アイルランド民謡 里見義訳詞

一、庭の千草も 虫の音も  
枯れて淋しく なりにけり  
ああ 白菊 ああ 白菊  
ひとりおくれて 咲きにけり

二、露にたわむや 菊の花  
霜におごるや 菊の花  
ああ あわれあわれ ああ 白菊  
人の操（みさお）も かくてこそ

## 8. 思い出のグリーン・グラス

J.Hall 作詞/山上路夫訳詞・C.Putman 作曲

汽車から降りたら 小さな駅で  
むかえてくれる ママとパパ  
手をふりながら 呼ぶのは  
彼の姿なの

思い出のグリーン・グリーン・グラス・  
オブ・ホーム  
帰った私をむかえてくれるの  
思い出のグリーン・グリーン・グラス・  
オブ・ホーム

昔と同じの 我が家の姿  
庭にそびえる 榎の木よ  
子供の頃に のぼった  
枝もそのままよ  
思い出のグリーン・グリーン・グラス・  
オブ・ホーム

悲しい夢見て 泣いていた私  
ひとり都会で まよったの  
生まれ故郷に立ったら  
夢がさめたのよ  
思い出のグリーン・グリーン・グラス・  
オブ・ホーム

笑顔でだれもむかえてくれるの  
思い出のグリーン・グリーン・グラス・  
オブ・ホーム

#### 9. うさぎ わらべ唄

うさぎ うさぎ  
なにみてはねる  
じゅうごやおつきさま みてはねる

うさぎ うさぎ  
なにみてはねる  
じゅうごやおつきさま みてはねる

#### 10. 里の秋 斎藤信夫作詞・海沼実作曲

一、静かな静かな 里の秋  
お背戸に木の実の 落ちる夜は  
ああ 母さんとただ二人  
栗の実 煮てます いろりばた

二、明るい明るい 星の空  
鳴き鳴き夜鳴（よがも）の 渡る夜は  
ああ 父さんのあの笑顔  
栗の実 食べては 思い出す

三、さよならさよなら 椰子（やし）の島  
お舟にゆられて 帰られる  
ああ 父さんよ御無事（ごぶじ）でと  
今夜も 母さんと 祈ります

#### 11. まっかな秋 薩摩忠作詞・小林秀雄作曲

一、まっかだな まっかだな  
ツタの葉っぱが まっかだな  
もみじの 葉っぱも まっかだな  
沈む 夕日に てらされて  
まっかなほっぺたの 君と僕  
まっかな秋に かこまれている

二、まっかだな まっかだな  
カラス瓜って まっかだな  
とんぼのせなかも まっかだな  
夕焼雲（ゆうやけぐも）を ゆびさして  
まっかなほっぺたの 君と僕  
まっかな秋に よびかけている

三、まっかだな まっかだな  
ヒガン花って まっかだな  
遠くの たき火も まっかだな  
お宮の 鳥居を くぐりぬけ  
まっかなほっぺたの 君と僕  
まっかな秋を たずねてまわる

#### 12. 夕焼け小焼け 中村雨紅作詞・草川信作曲

一、ゆうやけこやけで ひがくれて  
やまのおてらの かねがなる  
おててつないで みなかえろ  
からすといっしょに かえりましょう

二、こどもがかえった あとからは  
まるいおおきな おつきさま  
ことりがゆめを みるころは  
そらにはきらきら きんのほし

#### 13. 七つの子 野口雨情作詞・本居 長世作曲

からす なぜなくの  
からすは やまに  
かわいい ななつの  
こがあるからよ

かわい かわいと  
からすはなくの  
かわい かわいと  
なくんだよ

やまの ふるすへ  
いってみてごらん  
まるいめをした  
いいこだよ

#### 14. 赤とんぼ 三木露風作詞・山田耕筰作曲

夕焼小焼の、赤とんぼ  
負われて見たのは、いつの日か

山の畑の、桑(くわ)の実を  
小籠(こかご)に摘んだは、まぼろしか  
  
十五で姐(ねえ)やは、嫁に行き  
お里のたよりも、絶えはてた  
  
夕焼小焼の、赤とんぼ  
とまっているよ、竿(さお)の先

15. 故郷 高野辰之作詞・岡野貞一作曲

- 一、兎追いしかの山 小鮒釣りしかの川  
夢は今もめぐりて 忘れがたき故郷
- 二、如何にいます父母 恙なしや友がき  
雨に風につけても 思いいずる故郷
- 三、こころざしをはたして  
いつの日にか帰らん  
山はあおき故郷 水は清き故郷

16. Hey, 〈Mr.Minbu〉(民部稲荷)

小林範子作曲

民部稲荷(別名相撲稲荷)神社  
御祭神 倉稲魂神(うがのみたまのかみ)  
足腰健康の神様として川越八幡神社の境  
内に祀られている

17. 河童の伊勢まいり

川越市伊勢原町 「御伊勢塚公園」に河童伝説  
にちなんだ河童のおもしろいモニュメントが  
ある

- 一、カッパ カッパ カッパカパア  
カッパ カッパ カッパカパア  
三部輪唱 繰り返し

おいらは小畔(こあぜ)の 小次郎河童  
いたずら好きの 川の主  
仲よしこよしの 三匹で  
お伊勢まいりと しゃれこんだ  
カッパ カッパ カッパカパア  
カッパ カッパ カッパカパア  
カッパ カッパ カッパカパア

- 二、カッパ カッパ カッパカパア  
カッパ カッパ カッパカパア

三部輪唱 繰り返し

おいらは伊草の 袈裟坊(けさぼう)河童  
しっかり者の 川の主  
たにしのふたに 術(じゅつ)をかけ  
小判にみせて ふるまった  
カッパ カッパ カッパカパア  
カッパ カッパ カッパカパア  
カッパ カッパ カッパカパア

- 三、カッパ カッパ カッパカパア  
カッパ カッパ カッパカパア  
三部輪唱 繰り返し

おいらは小沼(こぬま)の かじ坊河童  
ひょうきん者の 川の主  
いんちきばれて 逃げかえり  
二度と旅など 出なかった  
カッパ カッパ カッパカパア  
カッパ カッパ カッパカパア  
カッパ カッパ カッパカパア

18. 虹の玻璃(ちきゅう)

寺島悦恩作詞・小林範子作曲

- 一、時は止まった 人影も凍る街  
嘆きの星  
The earth can be beautiful again

吹きすさぶ風に 舞い散る灰色の雪  
ともしびの森  
The earth can be beautiful again

かろやかに鳥が 笑いかける花  
輝ける森が 語りかける朝

- 二、オリオン遙かに よみがえれ夢の星  
虹の玻璃(ちきゅう)  
The earth can be beautiful again

青い空と 水と風のふるさと  
天の箱舟

The earth can be beautiful again

かろやかに鳥が 笑いかける花  
輝ける森が 語りかける朝